

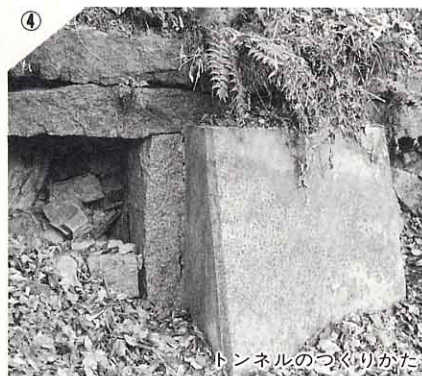
9 郷土の開発につくした人々

(1) 用水路をつくる



◀ 広瀬川の水を取り入れるために、今は、コンクリートで川をせき止めて水をうまく引き込んでいます。

昔は、蛇かご（丸く細長くあらくあんだかごの中に石などをつめたもの）や板、材木などでせき止め、その水を山すそまでみちびきました。大水のときにこわれたりして、たびたび修理しなければなりませんでした。



◀ 昔の取り入れ口付近の川の中の岩には、四角形や丸形の穴があいています。川をせき止めるとき、岩に穴をほり、柱やくいを立て、板や石でがんじょうに水を止める工夫をしたのです。川のすぐそばの山にトンネルを掘る時には、長く、掘ることがむずかしかったので、山すそから、よこ穴を掘って工事をすすめました。



◀ 昔のトンネルの掘り方は、重い槌やのみを使った手掘りで、かたい岩を掘るのにたいへんな苦勞をしました。掘った石を運ぶにも人手だけでしたから、たくさんの働く人が必要でした。

今のトンネルは、水がもれないようにコンクリートでかためられ、入り口も出口も、りっぱに作られています。